

落谷硯児氏の報告をめぐる討議

落谷教授の報告は、経済発展につれて国際収支構造が段階的に変化するといういわゆる「国際収支発展段階仮説」にもとづいて日本と韓国の国際収支構造を比較することにあつた。そして、先進国であるアメリカ、イギリスの経験から類推して、日本は初期債権国から成熟債権国へ移行する条件がととのいつつあり、一方、韓国はいまや中期債務国ないし債務取崩し国段階に移行しつつあるとの判断が示された。このあと以下のような質疑応答がなされた。

質問

落谷先生は経済発展段階説にもとづき、豊富な資料を使って韓国の現在の段階を規定されたが、そのもとになる前提あるいは仮定はどのようなのでしょうか。

回答

ご指摘はもっともです。今回はそれぞれの国が途上国から先進国に進んでいく過程で、国際収支発展段階仮説が妥当するであろうといういちおうの前提で作業をしてみたわけです。本来ならば、発展過程における産業構造の変化や輸出入の品目別構成比の変化などについても検討をすればよかったですのですが、今回はそれを割愛せざるをえませんでした。ただ、付図15をみてほしいのですが、これはホフマン比率の国際比較をみたものです。渡辺利夫氏の本からとったものですが、この比率は、重化学工業部門の付加価値に対する軽工業部門の付加価値の割合によって重化学工業化の度合を示したものです。これによると、韓国は1970年ごろ1.5から0.5へと第3段階に入ったわけですが、欧米の先進国が何十年とかかったこの過程を韓国はわずか数年で経過したわけです。もっとも、国際収支の面では未成熟債務国から成熟債務国ないし債務取崩し国に移行するにはもう少し時間がかかるのではないのでしょうか。

質問

日本の対外投資収支は1972年以降、若干の年

次を除いて黒字になっているが、その主たる源泉はなにでしょうか。また、資料の付図5によると、韓国、シンガポール、香港、台湾は他の国に比べて成長率が高いようですが、日本がこの4カ国から得ている投資収益は全体の中でどの程度の比率を占めているのでしょうか。

回答

最初の質問ですが、1970年代の初期は日本の直接投資はまだそれほど大きくはなかったので、延払い輸出や借款などによる利子収入が主たるものです。付表15に最近の日本の対外資産の分類がありますが、それが示すようにその後は証券投資とくにアメリカの国債、株式への投資による利子、配当収入が大きくなってきています。第2の質問に対してですが、シンガポールなど4カ国のデータを持っていないので正確な返答ができません。しかし、これらの国からの投資収入は直接投資、借款によるものが圧倒的で、証券投資は非常に少ないはずですが、もっとも韓国が今後証券市場の自由化をすすめていけば、日本の証券投資も増大すると思えますが。なお、日本の対外投資の状況は、ジエトロの海外投資白書、通産省の通商白書で知ることができます。

質問

落谷先生が国の経済発展を歴史的観点から見事に整理され、報告されたことに感心しました。(1) ところでレジユメの中に、中進国から先進国への発展経路を成功的に通過した国は少ないといっておられますが、中進国から先進国へ移行するには国際収支面でどのような条件が必要なのでしょうか。(2) 第1次世界大戦時に、日本が経常収支面で黒字を出した要因はなにでしょうか。(3) 韓国は今年初めて経常収支で黒字を出したのですが、これは円高、石油安、金利低下という3つの要因によるものです。先生が韓国の国際収支の今後についてどのような展望を持っておられるのでしょうか。(4) 現在、韓国はアメリカには年間60～70億ドルの出超にな

っているのですが、その分が日本への赤字になってしまっています。産業構造その他の面からみて、韓国が今後伸びていくためには日本との協調関係が欠かせないと考えます。日本の側には、韓国の底力に対する積極的な評価があるようですが、自分たちはそのまま信じてよいのかどうか、よくわかりません。韓国の経済成長あるいは産業構造の今後について教えていただければさいわいです。

回答

まず最初の質問ですが、提起された問題はまさに経済発展論の一つの中心課題です。中進国から先進国への経路を成功的に通過できる国は現実には数が非常に少ないのですが、日本と同様に韓国、台湾はいろいろな弱点を持ちながらもそれに成功したケースであると思います。それは輸入代替型ではなくて、輸出指向型の経済政策をとったことがよかったのだと思います。こうした事例は他の途上国にも参考になるのではないのでしょうか。

第2の質問ですが、これには「タナボタ」という日本的な表現があてはまるでしょう。つまり交戦国であるヨーロッパ諸国の輸出余力がなくなった間隙をぬって、アメリカと日本が輸出を伸ばすことができたわけです。また、日本が当時、重化学工業化の段階に入っており、それがうまくマッチしたといえます。

第3はむずかしい質問ですが、現在のような状況が長期に続くとは思いませんが、しかし、だからといって韓国の経常収支が再び赤字基調に転落するとも思えません。

第4の質問については、資料の付表25で韓国の輸出入と対日赤字の状況を紹介しておりますが、たしかに韓国の輸出が増えれば増えるほど日本からの輸入が増えることがこれでわかります。これは部品工業あるいはそれを担う中小企業の発展が相対的に遅れているからではないのでしょうか。また、同じことですが、経済の裾野が十分に展開していないともいえるかと思えます。

質問

韓国の経済成長については、高い評価がなさ

れたり、また、韓国はその面で恐ろしい国だと評価されたりしていますが、先生の感想はいかがでしょう。

回答

韓国については、両面の評価があるように思います。ひとつは、日本にとっても恐るべき競争相手だという評価です。同時に日本と韓国が相互補完的な関係を保ちながら発展していけば、環太平洋圏経済の牽引力にもなるわけで、そのことは非常に好ましいことだと思います。

(岡崎 守男*)

* 本学経営学部教授